

企画書様式

「大分の地域ブランド創造体験（仮称）」授業計画

Local Branding for Engaging in Oita

1. 授業の概要

（1）大分県の現状について

大分県は、温泉などの観光とものづくりなどの製造業が盛んな地域であるため、県内への若者就職数の増加にはこれら2つの産業の活性化が不可欠である。さらに、大分県の企業の99.9%（中小企業白書、中小企業庁）は中小企業であるため、中小企業の経営者自身が気づいていない自社の使えるコンテンツをビジネスに新しくつなげる等の中小企業の新事業立ち上げ支援策も必要となっている。加えて、高齢化が進む広大な農山漁村、中山間地域を大分県は持つ。このため、これらの農山漁村や中山間地域における特産品の6次産業化とそのブランド化は、持続可能で活力ある大分県を実現する上で不可欠である。しかし、これらの地域では、情報発信力不足、ブランド力不足、観光×農、観光×医療などにおける人の心を揺り動かす企画力の不足などが大きな壁となっている。さらに、出生率の低下と人口流出も拍車をかける形で、地域特産品や6次産品を全国や世界に向けてICTを活用して知らせる地域ブランディングがほとんど上手く展開できていない問題を抱えている。ムラを全国に、世界につなげる人材の育成と、その人材が都市と連携しながら地域コミュニティーのなかで生活を継続することが課題である。そのため、地域社会・企業組織が主体的に取り組む事業の支援を通じて、「地方創生」を担い支える人材の育成が重要である。

（2）授業のねらいや構成について

本授業は、そうした人材を育成するための地域ブランドを掘り起こすための力と企画力の育成を目的とするもので、大分県内の行政機関や企業から提示されたテーマに対して異校種、異なる学部学生から構成されるグループで、地域の関係者と共に、地域のデータやフィールド調査の情報などの事実を整理分析し、地域の魅力と地域が抱えている課題を指摘し、魅力を活かした課題解決方法を探るとともに、その解決のための方策を提案することをねらいとする。よって以下の3点を基本とした授業を行うこととする。

- ①COC+連携校による協働開発科目である「初年次地域キャリアデザインワークショップ」の受講生を主な対象者とし、その学びを基礎にして、地域の活性化を担う人材育成を目指した実践型授業を行う。
- ②一定の地域をモデルにして、地域の魅力を掘り起こすとともに、その魅力を活かし融合した地域活性化の新しいビジネスモデルや製品の開発提案を行う。
- ③活動は大学連携によるグループ活動（4人×5チーム程度）とし、域学連携による体験活動を通じて、6次産業人材の育成に向けた足掛かりとする。

<H29年度モデル地域>国東市での2回の宿泊体験型活動を通じて、地域の魅力（世界農業遺産を中心とした農林水産業やため池文化・生活習慣・祭文化、域外への玄関口である大分空港のお膝元としての観光開発の可能性）を掘り起こすとともに、国東地域活性化の新しいビジネスモデルや製品の開発提案を行う。

※H30年度以降もモデル地区を開発し、地区と協働したプログラムを開発していく。

2. 育成する能力と具体的な到達目標

本授業は、参加体験を踏まえ、企業力+地域力+汎用力のレベル2の「社会人として必要な基礎的な汎用力を発揮し、課題解決の方策を提案できる能力」を育成する授業であり、一部レベル3である、「参加（体験）して得た情報を基にして課題を指摘し、他者の意見も踏まえて課題解決の企画・提案ができる」に相当する内容にも踏み込むこととする。最終的には、地域のステークホルダーの納得感が得られる提案ができる人材の育成を目指すものであり、以下の具体的な到達目標を設定する。

(1) 情報収集・分析や他者とのコミュニケーションにより課題発見や対応策を考えることができる能力を育成する。

①地域での活動を体験して情報収集・分析し、テーマに関する地域社会が直面する課題を明らかにすることができる。

⑬⑭⑰⑱ (地域力、対課題基礎力、対人基礎力)

②他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめ、他者にわかりやすく提案することができる。

⑳㉑㉓㉔ (対人基礎力、対自己基礎力)

(2) 適切な資料を組み合わせるより良い課題解決の方策を企画・提案することができる能力を育成する。

①地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした商品開発を提案することができる。

⑤ (企業力)

②地域が抱える課題を知り、地域資源を活かした柔軟性を保った活性化策の計画立案を行い、提案することができる。

⑬⑱ (地域力、対課題基礎力)

3. 教材と授業の方法

①地元の6次化産業に関わる人材、自治体関係者の招聘（国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長 林浩昭様など）や、フィールドワークの対象として、6次産品の製造先、道の駅、歴史・文化遺産へ訪問、お祭りに参加して地域の現状を体験し、理解させる。

②グループのワークショップ（KJ法、四面会議システムを使用）や宿題（1回目合宿終了後2週間以内、個人ワークシート提出）、グループ内個人発表、グループプレゼンテーション3回（中間発表①、中間発表②、最終成果発表）を行いながら、課題解決の企画・提案をさせる。

4. 授業の展開

時限	授業内容	アクティブラーニング	評価方法と評価基準
1回目 1日目 10:00 ~12:00	授業の目標に向かったテーマ設定と授業展開づくり ①授業のねらいや訪問の際の心構えについて説明 ②授業実施のためのグループづくり ③アンケート、自己チェックシート実施	・グループづくりのアイスブレイキング	
13:00	地域体験活動1	・フィールドワーク	

～18:00	①6次産業に取り組んでいる農林水産業関係者を2箇所程度訪問 ②道の駅にて、6次製品の販売状況のヒアリング		
19:30 ～21:00	ワークショップ（初日振り返り） ①体験して得られた気づきをまとめる 2日目の導入 ②6次産品をブランド化するストーリーの必要性の説明	・グループ討議 ・KJ法	・取り組み姿勢や参加状況 ・まとめの資料
2日目 9:00 ～12:00	地域体験活動2 ①国東半島の歴史文化的特徴を知る（両子寺他）	・フィールドワーク	
13:00 ～14:30	ワークショップ（2日目の振り返り） ①国東の魅力をまとめる ②6次産品をブランド化するストーリーの提案資料作成	・グループ討議 ・KJ法	・取り組み姿勢や参加状況 ・まとめの資料
14:30 ～15:30	中間発表① ①模造紙にまとめる ※学生の気づきをステークホルダーに伝える	・プレゼン	・プレゼン内容
15:30 ～16:00	2回目に向けてガイダンス ①宿題 個人毎に6次産品を構想する ※ワークシート1枚（A3）用意して2週間以内に提出	・個人ワーク	
2回目 10:00 ～11:00	個人発表 ①1回目合宿のワークシートをグループ内で発表（各班に教員1名陪席）	・個人発表	・各自のワークシート
11:00 ～12:00	統合プランの検討 ①総合プランを模造紙に整理	・グループ討議	・取り組み姿勢
13:00 ～15:00	中間発表② ①総合プランを発表して、地域おこし協力隊、自治体関係者からの評価を受ける ※不足情報を認識し、班毎に再訪問先を決定	・プレゼン	・プレゼン内容
15:00 ～18:00	地域体験活動3 ①班毎に情報収集する	・フィールドワーク	
19:30 ～21:00	6次産品の企画書作成 ①学生視点から6次産品の提案を検討して模造紙に整理する	・グループ討議 ・四面会議システム	・取り組み姿勢

2日目 9:00 ～12:00	6次製品の企画書作成 ※前日のつづき	・グループ討議	・取り組み姿勢
13:00 ～14:30	最終成果発表と講評 ①模造紙を使って班ごとに6次製品の提案 ※授業協力者より講評	・プレゼン	・プレゼン内容
14:30 ～15:30	振り返り ①個人コメント発表 ②自己チェックシート	・個人発表 ・自己チェックシート 作成	・個人発表内容 ・自己チェックシ ート

5. 受講対象

- ① 対象学部 全学部全学科
- ② 対象学年 1・2年生
- ③ 受講対象者 COC+の参加校・協力校

6. 開講時期 1泊2日×2回の宿泊型（10月～11月の土日と、2月～3月の春休み期間中）

7. 授業実施体制

(1) 授業担当者

主担当教員：吉村充功（日本文理大学）

担当教員：各大学から1名（5～7名）

(2) H29年度情報提供者：JA 国東 OSK（大分椎茸協同組合）道の駅（有）林田かまぼこ店 両子寺 夢咲茶屋

(3) 受講者編成：4名×5グループを予定（異なる大学学系の学生の混成）

8. 授業評価（ルーブリック表）と評価方法

(1) 成績評価の内容及び評価割合

- ① 授業中のグループ討議等での発言や参加状況： 3割
- ② 課題の指摘や提案等の資料及びプレゼン資料： 3割
- ③ 班での課題解決のための提案とその内容： 3割
- ④ 振り返りポートフォリオ： 1割

(2) 評価者と評価内容と方法

① 指導する教員の評価

授業中のグループ討議等での発言や参加状況で評価し、ルーブリック表を利用する。

② 情報提供者の評価

最終報告会では、情報提供者の評価も加わる。その評価は教員の評価点よりも重視する。

③ 学生の自己評価

自己チェックシートで事前事後に評価させる。

(3) 具体的な到達目標の評価基準例

※各「育成する分野」のポイントに比重を加えて、その合計ポイントでS/A/B/C/Dの評価を行う。

具体的な到達目標	ポイント4	ポイント3	ポイント2	ポイント1
地域での活動を体験して情報収集・分析し、地域社会が直面するテーマに関する課題を明らかにすることができる。	地域での活動を体験して情報収集・分析し、地域社会が直面するテーマに関する課題を整理し、説明できる。	地域での活動を体験して情報収集・分析し、テーマに関する課題を整理することができる。	地域での活動を体験して情報収集し、テーマに関する課題を説明できる。	地域での活動を体験して地域の情報を収集できる。
他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめ、他者にわかりやすく提案することができる。	他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめ、他者にわかりやすく提案することができる。	他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画をまとめて提案することができる。	他者と協働して活動を行い、テーマについての対応計画を作成できる。	他者と協働して活動を行うことができる。
地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした商品開発を提案することができる。	地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした具体的な商品の開発について提案できる。	地域企業が抱える課題を知り、地域資源を活かした商品開発のポイントを提案できる。	地域企業が抱える課題を、地域資源と関連付けて整理できる。	地域企業が抱える課題を知ることができる。
地域が抱える課題を知り、地域資源を活かした柔軟性を保った活性化策の計画立案を行い、提案することができる。	地域が抱える課題を知り、地域資源を活かした柔軟性を保った活性化策の計画を提案することができる。	地域が抱える課題を知り、地域資源を活かした活性化策のポイントを提案できる。	地域が抱える課題を、地域資源と関連付けて整理できる	地域が抱える課題を知ることができる。

9. 授業に関するその他の事項

①時間外学習

- ・講義に加えて、地域体験の準備、体験のまとめや整理などの活動を行う。
- ・中間報告のまとめ10時間と、最終報告のまとめ5時間を想定している。

②準備物

- ・宿泊用の衣類等一式、保険証、常備薬、メモ帳を用意する。

③注意事項

- ・地域活動のため、保険加入が必要となる場合がある。
- ・食費は自己負担とする。
- ・大分市、別府市内からの往復送迎バス運行（無料）

10. 授業実施に関するその他の事項

大分を創る人材を育成する科目である「ジェネリックスキル養成1」「ジェネリックスキル養成2」「大分の地域資源」「初年次地域キャリアデザインワークショップ」を履修もしくは同時履修することが望ましい。